

## 事業報告書（令和元年度）

事業名 世界の格差と多様性から SDGs を学ぼう

— 「誰一人取り残さない (No one will be left behind)」世界の実現に向けて  
今、私たちが知るべきことやるべきこと」—

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上正道

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

- 日時：2019 年 11 月 16 日（土）13:30-17:00
- 会場：コミュニティスペース「ハッシュタグ」  
（岡山市北区北長瀬表町 2-17-80 ブランチ岡山北長瀬内）
- 主催：特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
- 後援：岡山県、岡山市、岡山 ESD 推進協議会、JICA 中国、SDGs ネットワークおかやま
- 企画展示（入場無料、出入自由）13:30～15:00「貧困博物館」

当団体がプロジェクトを実施している国の文化や暮らしなどを紹介するパネルや、生活用品、教育教材、民族衣装、おもちゃなどの展示（展示品に触れ、体験することが可能）を行い、体験的に学べる機会を提供した。

会場内には以下の 5 ブースを設置し、パネル（2L～A1 サイズ）97 点、展示品 39 種 61 点を展示し、スクリーンには各国の画像・動画を投影した。

ブース① LIFE（衣・食・住の展示）

ブース② HEALTH（保健・医療の展示）

ブース③ EDUCATION（教育の展示）

ブース④ JICA 草の根技術協力事業（ホンジュラス共和国）

ブース⑤ Smile リレー



講演・トークイベント（定員 80 名、入場料：一般 1,000 円、大学生以下無料）

15:00～16:00 石井光太講演「本当の貧困の話しよう」

16:00～17:00 石井光太×AMDA-MINDS トークイベント「未来を変える方程式」

スピーカー：石井光太、鈴木俊介/AMDA-MINDS 理事長、山田留美子/AMDA-MINDS ホンジュラス・グアテマラ事業統括

ファシリテータ：中村康人/KSB 瀬戸内海放送



ノンフィクション作家・石井光太氏の講演では、氏の近著『本当の貧困の話しよう』をテーマに、日本と発展途上国の取材現場で出会った貧困層の現状やエピソードが語られた。続くトークイベントでは、ファシリテータに青年海外協力員の経験を持つ KSB・瀬戸内海放送の中村康人氏を迎え、AMDA-MINDS の鈴木俊介（理事長）、山田留美子（ホンジュラス・グアテマラ事業統括）も登壇し、国際協力に関心をもったきっかけなど、様々なテーマについて語られた。

- 参加対象者：岡山市民（岡山市に在住・在勤・在学を含む）及び、岡山県内在住・在勤・在学者
- 来場者数：122 人

## 2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

国際協力への関わり方につき、4 人のキャリアを具体的なロールモデルとして提供することで、ESD の視点にたった自らの実践へとつなげてもらえるよう促した。

また、展示物を見て、触って、体験できたことや、4 人のスピーカーによる実体験もとした様々な視点から開発途上国の現状を伝えることで、関心の喚起、自発的な行動につながったと考える。

## 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

貧困博物館（展示、講演、トークイベント）を通して世界の多様性や課題などを学ぶことで、世界のどこかで起こっている現実を自分のこととしてより深く理解でき、岡山と世界の関係や岡山で実践できる貢献を考えるきっかけを提供することができた。

参加者アンケートには、

- 「貧困に対する考え方が変わった」
- 「今後の生き方に影響する内容だった」
- 「勇気をもらう言葉をいただいた」

石井光太氏が語った「貧困をなくすには自己肯定感を育むことが不可欠であり、心の豊かさが課題解決の原動力となる」といったメッセージが印象に残ったのではないかと考える。

## 4. 今後の課題と展望

貧困博物館は実施会場、期間、形態などのアレンジが可能であることから、今後はさらに展示内容を充実させ、数日間にわたった開催も可能にしたいと考えている。一方、開催には通常の報告会や勉強会よりも費用、準備期間などがかかることから、今後はさらなる資金調達の取り組みが必要となる。